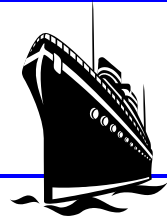


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた輸送インフラ整備

リオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックも閉幕し、2020年大会は56年ぶりに東京で開催されます。開催に向け競技会場をはじめとするインフラ整備が進められていますが、本稿では、2020年に向けた政府の取組のうち、主に輸送に関連する計画を中心にご紹介いたします。

1. オリンピック・パラリンピックに向けた政府の取組

2015年11月27日、政府は「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」を閣議決定しました。世界最大の平和の祭典を開催するにあたり、自信を失いかけてきた日本を再興し、成熟社会における先進的な取組を世界に示す契機としなければならないと基本方針では述べており、大会に参加する全てのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、セキュリティの万全と防災・減災等の安全・安心の確保、アスリートや観客の輸送等大会運営の成功のための体制を整えることは必須としています。

この基本方針では、関連施策の立案と実行にあたっての基本的な考え方、施策の方向性が示されており、進捗は「大会に向けた政府の取組」として定期的に公表されることとなっており、首相官邸のホームページに掲載されています。

2. 主な道路整備計画

基本方針では、万全なセキュリティと安全・安心の確保などの施策とともに、円滑な輸送を実現するための方策についても述べられていますが、その中で道路輸送インフラの整備としては以下が挙げられています。

① 首都圏3環状道路

首都圏の道路交通の骨格として、3環状9放射のネットワークは1963年に計画されましたが、東名、中央、関越、東北道など放射方向の高速道路が整備される一方、環状方向の高速道路の整備が遅れました。

その結果、都心が目的地ではない車両も都心環状線に集中し、慢性的な渋滞が発生しています。圏央道・外環道・中央環状線からなる「3環状道路」が整備されれば、都心の渋滞解消が期待され、国土交通省では、大会の円滑な開催に資するとして、地元の協力を得ながら整備を推進する考えです。なお、2015年10月31日時点の整備率は74%となっています。



【出典：国土交通省関東地方整備局 HP】

② 環状第2号線

築地市場移転問題でも話題となった環状第2号線は、江東区有明から中央区、港区などを経て千代田区神田佐久間町の間を結ぶ、全長約14kmの幹線道路です。これまでに、外堀通りの区間など約9kmが完成していましたが、2014年3月に新たに港区新橋から虎ノ門までの約1.4kmの区間も開通し、現在は江東区豊洲から港区新橋までの約3.4kmの区間で工事が進められています。

この環状第2号線の整備により、以下の効果が期待されるとともに、オリンピック・パラリンピックでは、晴海の選手村とオリンピックスタジアムを結ぶ重要な道路に位置付けられています。



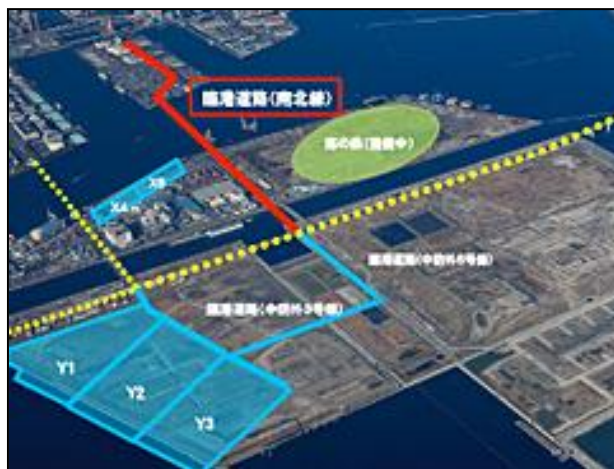
【出典：東京都第一建設事務所 HP】

【環状第2号線の整備効果】

- 臨海部と都心部を結ぶ交通・物流ネットワークの強化
- 並行する晴海通りの渋滞緩和など地域交通の円滑化
- 臨海地区の避難ルート多重化による防災性の向上

③臨港道路南北線

京浜港の一翼を担う東京港において、中央防波堤地区と有明側を結ぶ主動線として、2020年共用開始に向けて整備が進められています。東京港周辺道路の渋滞緩和により、物流コストの削減や安定的な輸送を可能とするとともに、東京港の南北の移動が青海縦貫道路に加え2ルート確保されることになり、大規模補修や災害・事故時における安定的な物流・人流が確保できることとなります。オリンピック・パラリンピックでは、東京ベイゾーンの中心会場となるお台場地区や選手村が設置される晴海地区とを結ぶルートとしての活用が期待されています。

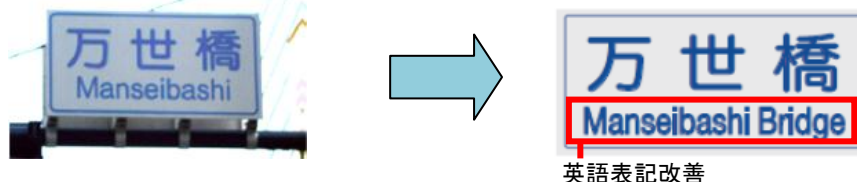


【出典：国土交通省HP】

3. その他のインフラ整備に関する取組

国土交通省が掲げている取組には、前記の道路整備以外にも、首都圏空港における輸送需要への万全の対応・アクセスの充実、バリアフリーなまちづくり、案内標識の多言語化対応や無料公衆無線LANの整備など、外国人旅行者の受け入れ環境整備など多岐にわたっています。案内標識の多言語化対応については、2016年1月に東京都内、9月には周辺地域である千葉県、埼玉県、神奈川県について道路標識改善の取組方針が発表され、英語表記の改善や路線番号の活用、通称名表記などが進められ、外国人旅行者をはじめとするさまざまな来訪者にとって、さらに道路標識がわかりやすいものとなるよう、改善が図られます。

【英語表記改善のイメージ】



4. 最後に

オリンピック・パラリンピックの開催は、都市のあり方にも大きな影響を与えるものであることは、前回開催後の東京ばかりでなく、他都市の事例をみても明らかと言えます。前回1964年大会においても、首都高速や新幹線の開通や幹線道路の拡幅など、高度経済成長を支える整備が行われ、物流にも大きな恩恵をもたらしました。国土交通省ではこの大会を契機に東京を世界最先端の都市に作り変えることを目指し、2020年をゴールとするのではなく「マイルストーン」として、2050年の将来像を見据えた取組を進めていくとしています。

輸送に関連するインフラ整備は物流面にも大きな恩恵をもたらすものであり、この意味でも東京オリンピック・パラリンピックは開催が待ち遠しい大イベントといえます。

<参考文献一覧>

国土交通省HP <http://www.mlit.go.jp/>

国土交通省「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国土交通省の取組」

首相官邸HP <http://www.kantei.go.jp/>

国土交通省関東地方整備局HP <http://www.ktr.mlit.go.jp/>

東京都第一建設事務所HP <http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ichiken/>